

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第 39 号 2013 年 9 月 30 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会
発行責任者 ; 間野 洋 編集者 ; 木村 信夫

森の豊かさを楽しむイベント案内...秋から冬の行事 会長 間野 洋

当会は設立 12 年目を迎え、森づくりとその管理、地域との交流を主に活動しています。とくに力を入れている地域との交流「森の豊かさを楽しむイベント」について、秋から冬にかけての行事をご案内します。

5 ~ 9 月の森でのイベント報告

○たまみこども会 : 森で遊びカレーを楽しむ
○日本女子大学人間社会学部 : 「まちづくりと学習」のテーマで野外学習、後日質疑応答
○西生田小学校 3 年生 : 総合学習で春と夏の「多摩美の森の観察」
○西生田小学校サッカークラブ : 森で遊び、バーベキュー・焼き芋を楽しむ
○麻生プレーパークを創る会 : 森を「冒険遊び場」として自由に遊ぶ
○オーロラ天文台・渋谷星の会 : 「夏の星空を楽しむつどい」(本号 3 頁参照)
○川崎・多摩美の山トラストの会 : 「森のアトリエ」。

秋から冬のイベント案内

1 .西生田小学校 5 年生 総合学習(139 名)

10 月 15、16 日(火、水) 「暮らしに役立つ植物たち」の観察、「光合成のしくみと樹木の二酸化炭素吸着量の測定」を予定。

2 .麻生プレーパークを創る会 10 月 19 日(土)と 2 月 15 日(土)開催予定。

3 . 第 13 回 植樹祭 & 収穫祭

11 月 17 日(日) 今回は主催 : 麻生多摩美の森の会、後援 : 川崎・多摩美の山トラストの会、協賛 : 多摩美みどりの会 で開催。テーマは「森でうれしい人と地域の出会い」。

キャッチフレーズ「森のごちそうと音楽を楽しもう」です。行事内容は、「暮らしに役立つ植物たち」の観察、記念植樹の後、収穫祭では森の畑で採れた里芋の豚汁・茹で芋、フランクフルトソーセージ・マシュマロ焼き、燻製づくり、日本女子大学生によるフォルクローレ演奏を楽しみ、地域の皆さんと交流のひとつを過ごします。

皆様お誘いあわせて多数ご来場下さい。

4 . 川崎・多摩美の山トラストの会「森の展覧会」 11 月 17 日(日) ~ 23 日(土)。

5 .西生田小学校 3 年生 総合学習(136 名)
11 月 21 日(木) 秋の森の観察 「種の旅立ち」森の動植物のビンゴゲーム」を予定。
2 月 6 日(木) 冬の森の観察を予定。

6 . 川崎市市民健康の森 7 区交流会 (麻生区担当) 11 月 24 日(日) 多摩美緑地の 4 地区(多摩特別緑地保全地区、麻生区市民健康の森、多摩美ふれあいの森・たんぼぼ園・野草園、多摩美特別緑地保全地区)を視察。

7 . カリタス女子中学校 3 年生「緑の支援活動」(約 190 名) 12 月 17 日、18 日(火、水) クリスマス奉仕の一環として、多摩特別緑地保全地区で孟宗竹伐採、市民健康の森の篠竹エリアで斜面下草刈・蔦類の除去、多摩美ふれあいの森の下草刈・森の整備を予定。

8 . オーロラ天文台・渋谷星の会「真冬の星空を楽しむつどい」 2 月初旬 オリオン大星雲、スバル、シリウス星などの観測。

以上、8 イベント、延日数 18 日です。

若い会員からのメッセージ...活動の感想と意気込み

まずは自分が楽しんで参加 牧野けい
このコーナーのタイトルは、多摩美の森の会に参加するにあたっての新入会員としての意気込みということなのですが、あえて「意気込まずに楽しんで参加する」が私の当面の目標です。

多摩美の森の会は、地域の住民の方との距離が近い（散歩をしている方との会話がちょくちょく聞かれる）、会員同士が自由に言いたいことを言い合っている、のが魅力だと思います。通りがかりの方、口コミで知った方がなんだか楽しそうだなと思って活動に興味を持っていただけるように、まずは自分が楽しんで作業に取り組みたいと思います。

結果的に女性会員が増えたら嬉しいです（きっと皆さんも嬉しいに違いないです）。よろしくをお願いします。

里山を伝える 大塚勇哉

昨年の6月ごろ、大学で農学を学び始めてまだ間もない私は、座学だけではなく実践が必要なのではないか、と思いつき、多摩美の森の会に入会しました。

もともと、自然保全活動に関心があった私にとって、多摩美の森の会の活動は実践



祖父世代会員の温かい指導で里芋の植付け
（写真提供：清水まゆみ市民記者）

的な技術や知識を得るだけのものではなく、大学の授業ではなかなか経験できない、とても楽しいものでした。

多摩美の森の会に入会して、一番強く感じたことは地域との結びつきの強さです。時々行われる、地域の住人を招いてのイベントは、麻生区市民健康の森の特色を表しており、周辺の小学校や中学校、近所の子供たちも巻き込む形で進行します。普段の活動も、そういったイベントを行いやすく、かつ里山の自然を感じられるような環境づくりを目指しているようなところもあり、正に“市民健康の森”、といった感じです。その中で行われる自然観察会や自然の恵みをふんだんに使った食事を楽しんでいる子供たちを見ていると、「こうやって里山が伝えられていくのだな」と感じます。

自然を後世へと伝えていくことは、自然そのものを守るだけでなく、後の世代をより豊かにする、とても大切なことです。大学の講義などにより、安定した参加はできないかも知れませんが、“里山”を伝えていくこの活動にわずかながらでも尽力したいと思います。

毎回刺激を受けて 松本 薫

私が多摩美の森の会の活動に参加することになった理由は、大学の先生からの紹介です。私は、人と関わりのある自然という点で雑木林に興味を持ちました。大学では雑木林を対象に研究を行っています。しかし、大学で学ぶだけでは現実の世界での雑木林のあり方を学べないと思い、何か自分が関われるものはないかと先生に相談をしました。そこで紹介されたのが多摩美の森でした。

多摩美の森の方々は私の祖父と同じくらいの年齢の方々ばかりで、はじめのうちは私も大変恐縮していました。しかし、何度か活動に参加し、お話をすることで私自身刺激を受け、活動の日を楽しみに思うようになりました。多摩美の森の方々は私の全く知らないこと、ほかの場所では決して聞けないようなことをお話して下さいます。

私は毎回刺激を受け、時に考えさせられます。また、活動の際も物の扱い方や作業の時のちょっとした工夫など普段学べない多くのことを学べます。違う時には違うとはっきり言ってくださることも、大学生の友人関係などからは経験できない貴重なことです。

私自身、この活動では毎回刺激を受けています。そして、私のような若者が参加することに、歓迎して下さいていることも非常に嬉しいことだと思っています。今後も参加できるかぎり参加し続け、積極的に関わっていきたいと思います。



神奈川新聞で若者たちの意気込みを紹介
神奈川新聞の「市民発 地域をつくる人 活動」は、“ボランティア・市民活動を、市民が取材し、市民が発信する”をコンセプトに、取材と執筆は、(公財)川崎市市民活動センターの市民記者養成講座を受講したボランティアの記者が行い、毎週土曜に掲載される。

清水まゆみさんは、市民記者となつての初仕事に多摩美の森の会を選び、2回に亘って熱心に取材。そして、多くの里山団体が苦勞している会員高齢化のなか、若い会員が生き生きと参加していることに光を当て、「里山が世代をつなぐ」のテーマで7月6日、大学生会員3人の入会動機や意欲が紹介された。

記事に登場した一人、田中駿会員は、「家宝にする」と決意を新たに。清水記者にその話をしたところ、大いに喜び、さらなる若い会員の参加、活躍を期待している。(木村記)

土星の輪に驚嘆の声 夏の星空を楽しむつどい

オーロラ天文台 小川誠治
8月3日(土)麻生区市民健康の森で行われた、オーロラ天文台・渋谷星の会主催の「夏の星空を楽しむつどい」は好天に恵まれ、約50名の市民の皆様に参加していただきました。イベントが紹介された東京・神奈川・産経の各新聞記事や地元の「ランびっく」やタウンニュース、K-Pressなどをご覧になり、足を運ばれた方も何組かおられました。

観測には長い行列ができ、順番待ちの時間を利用して、春の星座、大熊座の一部の北斗七星について説明。北斗の柄の先の二つの星を5倍すると、北極星がわかることを見ていただきました。また、地球の首振り運動のため、1万2千年後には、こと座のベガ星が北極星になることをお話しすると、不思議そうな顔をする方もいらっしゃいました。北斗の尻尾から2番目の星の近くに見える暗い星はミザールとアルコルという二重星で、肉眼で見えるギリギリの明るさであり、大昔のアラビアで兵隊の目の検査で使われたことも説明し、望遠鏡でこの星を観測しました。

次に、七夕の星や夏の大三角、アルビレオという美しい二重星、南の空に赤く輝くさそり座のアンタレスなどを望遠鏡で観測。

この日見える星の目玉は土星でした。土星の環を見た大人の方が「わ、わ、輪が本当に見える」と驚きの声を上げ、また小さなお子さんからは「まるで土星みたいだな」という感想があり、場内大爆笑となりました。この日の空は澄んで、気流の乱れもなく、素晴らし土星を堪能していただきました。

次回は来年2月頃、真冬の星空を見る会を企画しますので、宜しくお願いします。

なお、7月23日FMかわさきに出演し、観測会のお話をしました。また、この日は東京新聞本社生活部の三浦記者さんが、16時頃から22時頃まで取材され、8月14日の生活面の「キラリ人生コーナー」にカラー写真で紹介されたことを報告させていただきます。

星空の観測の様子
(写真撮影：小島)



菅地区特産「のらぼう」の栽培報告

畑の管理分科会 中谷一郎

のらぼうは「菅のらぼう保存会」高橋孝次会長のご好意で、苗を分けていただき、昨年11月末に定植しましたが、今年1月14日の大雪と寒さをものともせず、ぐんぐん青葉濃く成長し、3月には花芽(とう)、若葉が食べられる様になり、おひたしにして、まず作業員全員で試食。その後2~3回試食して、3月24日(日)森の会10周年記念誌発行の報告会で行政、町会関連、連携各団体の方々にも味わっていただき、大変おいしいと評判でした、料理は近隣の主婦の皆様の腕に負うところがで、深く感謝しています。

その後、花が咲きタネができ、それを7月に刈取りしましたが、菜の花の茎の太さに比べ2倍以上ありました。採ったタネの播種時期を9月~10月初めにしたいと思っています。

のらぼう畑の耕うん、肥料撒きも9月7日には終了致しましたが、今回は播種から始め、仮植を省き、間引き、草取りなどをしながら定植を兼ねますのでどうなりますか？

不安と希望で一杯ですが、ご期待下さい。

森づくり分科会の活動 井上正樹

今年は連日の猛暑のため、下草の成長が激しく6月から9月にかけてほとんど毎回下草刈りを行なった。藤棚の藤の新芽の蔓が桜に絡まり、桜の成長に影響を及ぼすので、長く伸びた蔓の伐採を7月から8月に行なった。

北斜面の高木が成長し太陽が当たらなくなった部分の萌芽更新のため、間伐を行なった。

麻生区で唯一下水道が整備されていなかった地区への整備工事が始まるが、そのための4m道路用地にある11本のヤマツツジ(写真)の移植を11月に実施予定で、移植先は下の畑へ降りる道の右側斜面を予定している。



今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

秋は市民健康の森では一番忙しい時期となります。冒頭の会長の紹介にもあるように、去年までとは少し趣向を変えた収穫祭&植樹祭があり、西生田小学校児童の環境学習もあります。めでたく2020東京オリンピック開催が決まりましたが、ここの森でも次世代につながるべく皆でがんばりたく思います。

今後の活動予定は次の通りです。

- 10月 5日(土)畑手入れ、レンゲ播種
 - 10月15日(火)16日(水)西生田小5年生 森で環境学習
 - 10月19日(土)プレーパークへの協力
 - 10月20日(日)里芋収穫、畑手入れ
 - 11月 2日(土)里芋収穫、植樹祭準備
 - 11月10日(日)里地里山ナチュラリスト講座で秋の植物観察(講師 高橋英氏)
 - 11月17日(日)第13回 植樹祭&収穫祭 植樹・観察、豚汁・燻製等、森の音楽会
 - 11月21日(木)西生田小3年生 秋の観察会
 - 11月24日(日)7区交流会 於多摩美の森
 - 12月 7日(土)畑手入れ、草刈り、清掃
 - 12月15日(日)樹木の剪定、畑の手入れ、草刈り
 - 12月17日(火)、18日(水)カリタス女子中学校のクリスマス奉仕作業
- この間補助作業日は第2、第4水曜日です。
10月~5月の作業時間は10~12時です。

会員募集中です 一度見学にお出で下さい。

里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/000028128.html>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com